

県民会館などを廃止 フラワーパークも民間移管 酒井氏「結論急がず、県民的議論を」

10月7日の県議会行財政改革特別委員会に、県民会館など廃止の方向性が示されました。県民会館は、大規模改修の実施設計まで進み、億単位のお金が支払い済み。県は、「耐震化などの改修費用は30億円にのぼり、駐車場やバリアフリーの問題は解消しない」として、多大な費用をかけてまで維持しない方針です。

県立図書館は、「収蔵庫が不足、雨漏り対策が必要」「市立図書館とのサービス重複の解消」などとして、前橋市立図書館との合築を視野に再整備を図るとしています。

ぐんまちゃん家（東京）は、立地から来場者増加を見込むことは難しいと判断。今契約期間中に方向性を出す方針です。

ぐんまフラワーパークは入園者数が減少、民間の競合施設もあり、民間への移管を検討します。このほか、伊香保リンクは、収支の大幅な改善を図るが、不可能なら廃止。妙義青少年自然の家、森林学習センター、緑化センター、ライフル射撃場は廃止を検討します。

酒井県議は、2回開催したという「あり方見直し委員会」のメンバーも議事録も非公開で、パブリックコメント（県民からの意見公募）も実施しないことを問題視。「中間報告だといひながら、結論先にありきではないか。議会軽視の誹りを免れない」と批判。メンバーや議事録の公表、パブコメの実施を求めました。そして、関係市町村や団体、県民の意見をよく聞き、慎重に議論するよう要請しました。

自民党委員からも「関係団体と丁寧に話をすすめてほしい」「最終的には議会が判断すること」とくぎをさす場面も。特別委員会として、10の全対象施設を現地調査する計画です。

踏み込んだPCR検査を 災害時の専門チーム設置要望 伊藤県議が質問

伊藤祐司県議は7日、県議会危機管理対策特別委員会で、コロナ対策や、災害時の感染対策について質問しました。

伊藤県議は、女優の広瀬すずさんが、映画撮影現場で定期的に行う集団検査でコロナ陽性と判明したことにふれ、検体採取可能な医療機関数が多い利点を生かし、医療機関、保育園、高齢者施設などの集団検査を行うよう提案。濃厚接触者の周辺まで検査範囲を拡大しているとの回答に伊藤氏は、「さらに一歩踏み込み、集団全体の検査をしてほしい」と求めました。

伊藤氏は、避難所での感染対策について、パーティションや段ボールベッドなどの備蓄状況や、避難所運営指針をただしました。県は、備蓄は十分でないが、リモートで市町村との打ち合わせ、設営訓練を行っている」と述べるにとどまりました。伊藤氏は、備品の数量だけでなく雑魚寝解消の視点も持ち、県としての運営方針を示すよう要望しました。